握手 (4)

井上 ひさし

ルロイ修道士は壁の時計を見上げて、

「汽車が待っています。」

と言い、①右の人さし指に中指をからめて掲げた。これは「幸運を祈る」「しっかりおやり」という意味の、ルロイ修道士の指言葉だった。

上野駅の中央改札口の前で、思い切ってきいた。

「ルロイ先生、死ぬのは怖くありませんか。わたしは怖くてしかたがありませんが。」

かつて、わたしたちがいたずらを見つかったときにしたように、ルロイ修道士は②少し赤くなって頭をかいた。

「天国へ行くのですから、そう怖くはありませんよ。」

「天国か。本当に天国がありますか。」

「あると信じるほうが楽しいでしょうが。死ねば、何もないただむやみに寂しいところへ行くと思うよりも、にぎやかな天国へ行くと思うほうがよほど楽しい。そのために、この何十年間、神様を信じてきたのです。」

わかりましたと答える代わりに、わたしは右の親指を立て、それからルロイ修道士の手をとって、しっかりと握った。③それでも足りずに、腕を上下に激しく振った。

「痛いですよ。」

ルロイ修道士は顔をしかめてみせた。

上野公園の葉桜が終わる頃、ルロイ修道士は仙台の修道院でなくなった。まもなく一周忌である。わたしたちに会って回っていた頃のルロイ修道士は、身体中が悪い腫瘍の巣になっていたそうだ。葬式でそのことを聞いたとき、わたしは④知らぬ間に、両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた。

別れの握手の描写

「わたし」とルロイ修道士の別れの場面では、これまでの場面とは二人の立場が入れ替わるかのように、「わたし」がルロイ修道士の手をしっかり握って腕を上下に激しく振り、ルロイ修道士が顔をしかめてみせている。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「右の人さし指に中指をからめて掲げた」とあるが、ルロイ修道士のこのしぐさの意味するものを全て選びなさい。

ア 「こら」　イ 「しっかりおやり」　ウ 「よし」
エ 「わかった」　オ 「よく聞きなさい」
カ 「幸運を祈る」　キ 「最高だ」

〔　　〕

(2) ――線②「少し赤くなって頭をかいた」とあるが、このときのルロイ修道士の心情として適当なものを選びなさい。

ア 自分が天使園の子供たちに最期の別れをしていることを気づかれてしまったと感じ、きまり悪く思っている。
イ 「わたし」がかつていたずらをしていたことを思い出し、改めて天使園での思い出を懐かしく感じている。
ウ 自分が病気であることを「わたし」に気づかれたくないので、なんとか話題を変えてごまかそうと思っている。
エ 「わたし」との別れの時間が近づき、汽車に乗る前に改めて天使園での出来事に思いをはせ、別れを惜しんでいる。

〔　　〕

(3) ――線③「それでも足りずに、腕を上下に激しく振った」とあるが、このときの「わたし」の様子として適当なものを選びなさい。

ア ルロイ修道士にどのような言葉をかけたらよいかわからず、無理に大げさな動作で別れの挨拶をしている。
イ ルロイ修道士と別れることがつらく、何とかしてルロイ修道士を引き止めたいと態度で表している。
ウ ルロイ修道士が病気であるかどうか確信がもてず、別れの前にルロイ修道士にたずねるか迷っている。
エ ルロイ修道士との最後の別れになると感じ、ルロイ修道士への思いを全て伝えようとしている。

〔　　〕

(4) ――線④「知らぬ間に、……打ちつけていた」とあるが、このときの「わたし」の心情として適当なものを選びなさい。

ア ルロイ修道士が「わたしたち」に会って回っていたときの病状を知り、改めてやるせなさを感じている。
イ ルロイ修道士が病気であったと知り、そのことに思い至らなかった自分にふがいなさを感じている。
ウ ルロイ修道士がなくなったことを実感し、無断外出の出来事を改めて申し訳なく思っている。

〔　　〕